

# 英語指導改善懇談会が最終報告



—そもそも、なぜ英語の二十一世紀に持つ意味指導方法について議論が必要を再確認すべきではないか  
要だったのでしょうか。ということが前提にありま  
学長 私としては英語だした。それには学校教育全  
けではなく、言語というも 体の問題に触れざるを得ま

より良い英語教育の在り方を議論してきた「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会」は先月十九日、最終報告をまとめた。そこには、小学校英語の「教科化」の検討や、小・中・高・大学を通じて一貫した英語教育の推進の提言が盛り込まれている。国際化、グローバル化が間違いない進む二十一世紀、日本の英語教育やその指導の針路は—。

## 中嶋嶺雄座長（東京外国語大学長）に聞く

### 小学校英語の教科化

# 「総合」の次のステップとして

せん。英語教育は、習熟度別クラス編制、少人数学習が欠かせず、従来の一律平等の教育ではできないからです。理解力の高い子どもには次のステップを踏ませる、目的別にクラスを編成する、将来、国際的な仕事を  
を持つ子どもに、英語の二  
ユースを日常的に聞いても

ず、早期に英語を耳から聞かすことが大切  
です。また、早くから異文化理解を深める必要もあ  
ります。英語教育の「過熱化」が懸念されます。この点に  
は十分、注意を喚起したい。親や教師の責任は重いと  
思っています。 — それでもやはり、  
「教科としての英語教育の可能性を検討」に目がい

—今後、報告をどう生かすことを希望しますか。  
学長 一列も早く提言に従って、文部科学省も政策  
課題を詰めていってほしい。各都道府県、各学校  
現場で、また、小・中・高  
大学間で連携を十分図り  
ながら取り組んでほしい  
です。

らうなど、英語教育を通じ  
て従来の平等主義教育に警  
鐘を鳴らす面もあります。  
—そして今回の報告で

学長 マスメディアは小  
学校の英語教育の部分に注  
目しますが、大きく分けて  
国民全体の英語力の向上と  
国際的に活躍するリーダー  
としての人材の英語力を向  
ます。  
学長 これは、来年度か  
ら始まる新学習指導要領の  
「総合的な学習の時間」で  
国際理解学習の一環として  
三年生から実施するだけで  
はなく、小学校で教科とし  
て英語を行うことを次のス  
テップにしていると理解し  
ていただいて結構です。  
「三年生から」にかかわら  
はどうか。  
学長 大学における英語  
は重要で、大学では「英  
語を学ぶ」ではなく、「英  
語で学ぶ」ことをすれば、  
おのずと英語の表現力が身  
に付くと思います。それが  
大学の使命であり、問題は  
大学教員の在り方、大学改  
革、国際化につながります。  
これまでも教養英語はあり  
も十分に育めるのでは、日本

の伝統・文化は世  
界の中で相対化し  
て初めて、その素  
晴らしさを実感で  
きると思います。  
—昨年末に提出された  
中央教育審議会や教育改革  
国民会議の報告では国際力  
や日本の伝統・文化の重要  
性を示す部分がありまし  
た。今回の報告との関係を  
どう考えますか。  
学長 相反するとは思  
いません。英語力の向上は国  
語力の向上につながり、逆